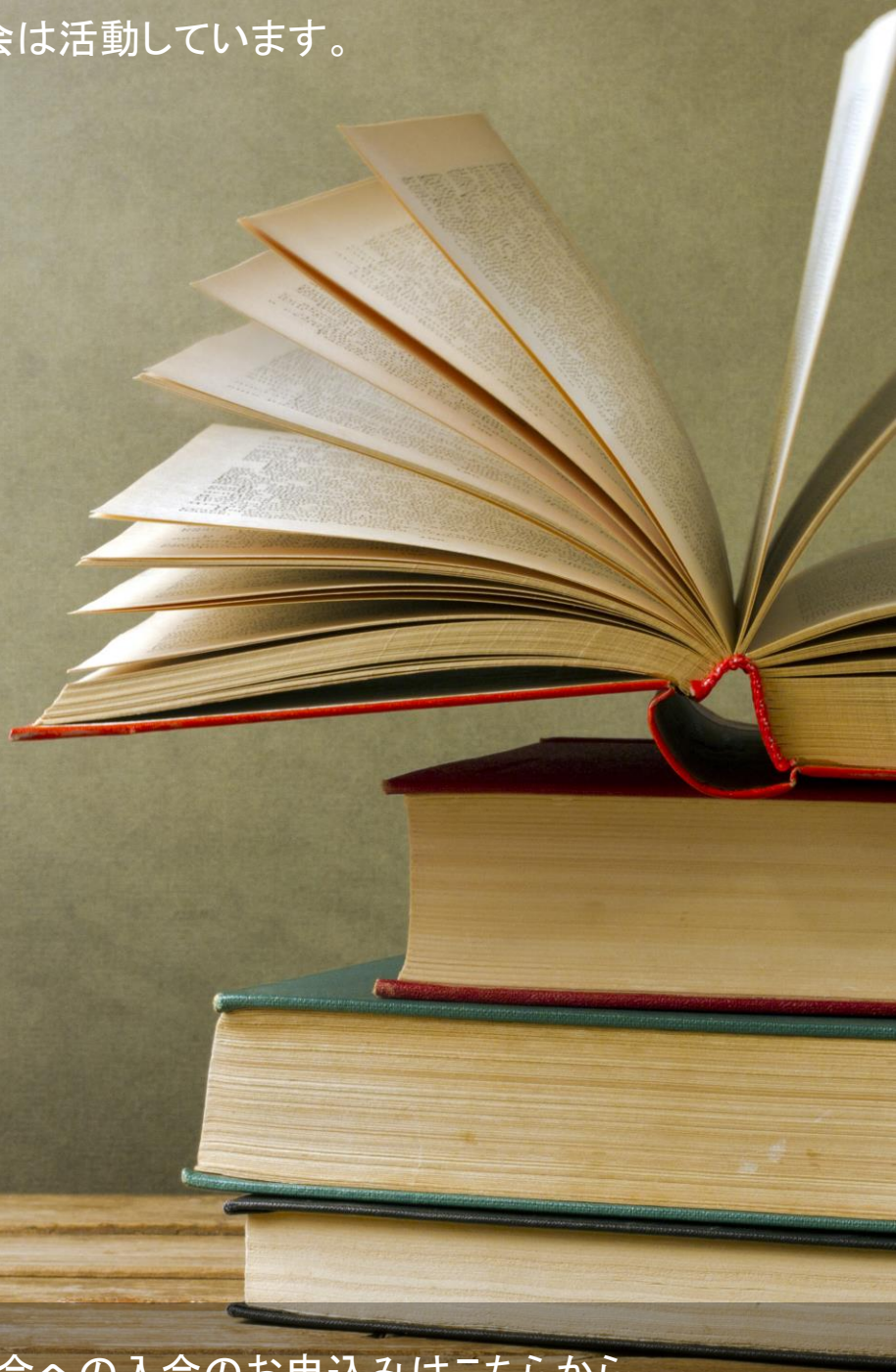




文字情報技術促進協議会

文字情報の確実な保全、相互運用が可能なIT環境の実現を目指して

書き手と読み手が同一の文字を見ている。
そんな当たり前の世界の実現に向けて
文字情報技術促進協議会は活動しています。



文字情報技術促進協議会への入会のお申込みはこちらから
<http://www.citpc.jp>

文字情報技術促進協議会のご案内

電子出版に見られるようにパソコンや各種デジタルデバイス、インターネット、オンラインサービスの普及に伴い、情報の発信者である作者と、受信者である読者との距離がこれまでに近く近くなっています。しかし、文字には地域、用途によって様々な字体が存在し、現在の多くのコンピューターソフトウェアではこれらすべてを同様には取り扱う事が出来ず、同じ文字を作者と読者が共有する事を保証する事が出来ません。例えば、住民基本台帳、戸籍には、一般に入力、表示が出来ない字体が多く含まれ、これらの文字はデジタルデータとして広く交換出来ないのが実状です。

■ Unicode IVS / IVD、文字情報基盤

IVS (Ideographic Variation Sequence) は、これまで困難であった文字入力から、メール・記録媒体による情報の伝送、受信、そして情報の表示・印刷において、常に同じ文字(字体)であることを保証できる仕組みです。また、これにより歴史的・文化的資産の電子書籍化や、電子政府システムを促進するために不可欠な人名、地名の正確な表記を、国際基準に則り、クラウドコンピューティング時代に欠くことのできない相互運用性を担保しながら実現することが可能となります。



■ 協議会の活動

文字情報技術促進協議会には、既に複数のアプリケーション、オペレーティングシステム、フォントベンダー、そして印刷会社が参加しており、Unicode IVS/IVDによる相互運用性の確立、実装課題の解決などに取り組んでいます。

文字コードが抱える様々な問題への取り組み

デジタル化されたデータを永続的に相互運用するため、時代と共に変化することのない安定した文字コード、外字の無い世界の実現が不可欠です。様々な技術セミナー、支援を行います。

IVS / IVD (UTS#37, Unicode Ideographic Variation Database) の普及促進

JIS X 0208、JIS X 0213では使用できない文字の様々なバリエーションを使用可能にするとともに、相互運用可能にします。

公開情報(会員限定)

- ◆ IVD対応したIME拡張辞書データ
- ◆ IVDマッピングテーブル
- ◆ セミナー、トレーニング資料
- ◆ 異体字データベースへのアクセス

マイ・ナンバー、行政における IT

戸籍システム、住民基本台帳システムをはじめとするこれまで外字を使用することで実現されてきた行政の情報システムの国際標準、文字情報基盤に基づく実装を支援します。

IVS拡張IME辞書、JIS X 0213縮退ツール、MJ & AJ1 マッピングの提供、および文字情報基盤導入支援。

異体字調査

異体字の調査、およびデータベースの構築。文字、異体字の確認、検索を容易に。

複数あるIdeographic Variation Databaseの調査、相互変換の為のマッピングテーブルの作成

Adobe-Japan1、MJの両コレクションに対応マッピングテーブルの作成を作成し、コレクション間の相互運用を可能にします。

詳しい情報は、IVS技術促進協議会ホームページで！

<http://www.citpc.jp>